

件名：平成28年度開発協力プレスツアー

2017年1月17日―18日、ワガドゥグ市及び近郊村落にて、平成28年度開発協力プレスツアーを2014年以来3年ぶりに実施しました。日本による開発協力の現状をメディア（新聞、インターネットサイト、ラジオ、テレビ）を通して国民に向けて紹介し、当国における日本の活動に対する認識・評価を高めることを目的に、ブルキナファソを代表する各社メディア（7社12名）を招き、二日間にわたり我が国の開発協力の現場を視察したほか、各種事業について説明し、日本の開発協力がブルキナファソの経済社会開発及び民政の向上に寄与している様子を紹介しました。

プログラム一日目は、日本の開発協力の全体的説明の後、ジロ県ダロ郡バジラコア村にて、平成23年度コミュニティ開発支援無償資金協力「保健社会向上センター建設計画」により建設された保健社会向上センター及びカディオゴ県コムシルガ市にて、平成26年度対ブルキナファソ草の根・人間の安全保障無償資金協力「中央地方カディオゴ県コムシルガ市ザムノゴ村公立小学校建設計画」により建設された小学校を視察しました。そして、二日目は、ウブリテンガ県ダペロゴ市にて、平成26年度1次隊青年海外協力隊員（小学校教諭）の活動視察の後、ユニセフ・ブルキナファソ事務所において、日本-ユニセフの協力について説明を受け、最後にJICAブルキナファソ事務所にて平成26年度開発調査型技術協力「西アフリカ成長リング回廊整備戦略的マスタープラン策定プロジェクト」及び平成25年度技術協力プロジェクト「ゴマ生産支援プロジェクト」について事業の内容及び課題などについて取材しました。

特に、参加メディア関係者の反響が大きかったのは、「保健社会向上センター建設計画」により建築された保健社会向上センターの美しさ、また、建設現場までの悪路にも関わらず、日本人コンサルタントが施工段階から現場に赴いて完成に至ったということ、また、青年海外協力隊員の日々の活動によって、地域の教員が授業の運営方法について考えるようになり、生徒たちがより質の高い授業を受けられるよう、研究授業や教材開発を行うシステムを、ブルキナファソ人教員だけで運営できるようになったこと等でした。また、一時期80人まで増えた隊員数ですが、ここ数年国内治安状況の影響で新規隊員派遣が中断し、現在国内には隊員が1名しかいないということにも非常に残念であるとの声があり、4月から始まる新規隊員派遣の再開に期待が寄せられました。

また、ユニセフでは、日本との連携によりブルキナファソで様々な活動が行われ、ユニセフを通して特に北部地方で大きな貢献を行っている様子を、事務所副代表である日本人職員の木下氏が行ったことにより、インパクトのある取材内容となりました。

プログラム終了時のメディア参加者からの感想には、より遠方の活動視察を望む、配付された資料がわかりやすかった、などの意見がありました。ツアー後一週間以内に各社から今般の取材に基づく記事が掲載・放送され、各社がそれぞれ記事を大きく取り上げたことから、当国における日本の協力への理解がさらに促進されたものと思われます。

【案件概要】

・事業名：平成28年度開発協力プレスツアー



青年海外協力隊員（小学校教諭）の活動校での教員研究授業視察



理科の課題を行う小学生



平成23年度コミュニティ開発支援無償資金協力事業「保健社会向上センター建設計画」建設地視察



平成26年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件「中央地方カディオゴ県コムシルガ市ザムノゴ村公立小学校建設計画」により建設された小学校校長へのインタビュー



ユニセフ・ブルキナファソ事務所における日本とユニセフの連携事業にかかる講義



JICA現地職員による平成26年度開発調査型技術協力案件「西アフリカ成長リング回廊整備戦略的マスタープラン策定プロジェクト」の紹介